

令和5年度第1回陸前高田市子ども・子育て会議

- 1 日時 令和5年7月24日（月）午後2時00分～午後3時30分
- 2 場所 陸前高田市コミュニティホール 2階大会議室A
- 3 出席者
出席委員（8人）
石渡 博之 委員、 伊藤 昌子 委員、 加藤千代治 委員、 岸 浩子 委員、
佐々木彩花 委員、 佐々木 誠 委員、 佐藤 和美 委員、 松田 秀樹 委員

欠席委員（7人）
大木 智春 委員、 大坂 智流 委員、 黄川田恭平 委員、 菊地 桂子 委員、
出羽 早苗 委員、 中村 賢司 委員、 武蔵野美和 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 事務局 福祉部子ども未来課長補佐兼子育て支援係長 阿部 景子
福祉部子ども未来課子ども家庭係長 吉田 保永
福祉部保健課保健師 蓑島 さやか
教育委員会事務局学校教育課指導主事 芳門 淳一
- 6 配置資料
 - ・ 陸前高田市子ども・子育て会議委員名簿
 - ・ 配席図
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 陸前高田市子ども・子育て会議について
 - ・ 資料2 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について
 - ・ 資料3 第2期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績
 - ・ 資料4 第2期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績
 - ・ 資料5 第3期子ども・子育て支援事業計画策定ニーズ調査について
 - ・ 資料6 市内保育施設の認可定員の変更について
 - ・ 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）（中間改定版）
- 7 会議録
 - 1 開会
 - 2 委嘱状交付
佐々木市長から委嘱状を交付。（代表受領者 佐藤和美委員）
 - 3 挨拶
（佐々木市長）

みなさん、こんにちは。本日はお忙しいところ、そして暑い中、ご参集いただきましてありがとうございます。先ほど、新たに陸前高田市子ども・子育て会議委員に任命された15名の方に委嘱状を交付させていただきました。委員の就任をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。今回、委員をお願いしました皆様にあっては、子育て支援に携わっていらっしゃる方々、保護者の方、そして学校や保育所の先生方、民生児童委員の方など、日頃から児童の健全育成にご尽力をいただいている皆様ですので、非常に頼もしく思っております。2年間、どうぞよろしく願いいたします。

さて、昨年の全国の出生数が過去最少となり、少子化や人口減少が加速している中で、児童虐待件数は増加傾向が続いているなど、子どもや子育てをめぐる環境は依然として厳しい状況であると認識しているところでございます。このような中で、国におきましては子ども政策に関する司令塔的な機能として、今年4月にこども家庭庁が発足して、全ての子どもが家庭や環境にかかわらず、健やかに成長することができる社会の実現を目指して、こども基本法が施行されたところでございます。さらには、先の国会では異次元の少子化対策に関するさまざまな議論がなされております。さらに、現在、県知事選挙も控えておりますけれども、その中でも子育ての問題も重要施策として取り上げられているという状況にあると思っております。

本市におきましても今年度から学校給食の無償化や、子育て応援クーポン券を高校入学時にも交付するなど、支援内容の充実に努めているところでございます。今後も子育てしやすい環境に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様のご支援、ご協力をお願いしたいと思っております。

今回委員をお願いした方々とは別に、子育てに関係する方々と意見交換の場を設けさせていただいております。そこでは、身近な場所に子どもを遊ばせる児童公園が少ないとか、子育てをされているお母さんやお父さんが安心して子育てをしながら働く場が当市にはなかなか少ないなどのご指摘をいただいております。非常に難しい問題であるのですけれども真剣に取り組まなければいけない問題だと思っております。今後ともこうした市民の皆様の意見を聞く回数、機会を増やすなどして子育て施策の充実に努めていきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、これまでの施策の実施状況を確認、評価していただくとともに、子育て支援の充実にに向けた積極的なご意見を頂戴したいと思っておりますので、本市のよりよい子育て環境を作っていくため、改めまして、委員の皆様のご協力を賜りますようお願いし、挨拶とさせていただきます。

4 委員並びに職員紹介

5 議事

(1) 会議の運営について（会長・副会長の選出）

会長の選出について、事務局案との声が上がリ、事務局案として伊藤昌子委員を提案し、承認された。

副会長の選出について、事務局案との声が上がリ、事務局案として佐々木誠委員を提案し、承認された。

(2) 陸前高田市子ども・子育て会議について（資料1）

（事務局説明要旨）

- ・子ども・子育て会議の法的根拠、目的、今年度の会議スケジュールについて説明。

（質疑応答・意見）

- ・なし

(3) 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について（資料2）

（事務局説明要旨）

- ・0歳から11歳までの児童数は年々減少しているが、未就学児の保育所等への入所率は増加傾向にあり、保育ニーズは高い。
- ・教育・保育の実施状況の説明。（高田保育所が保育所型認定こども園となっている。幼稚園は市内になし。認可保育所は市内8施設が全て国の基準を満たしている。今年度から3歳未満児の第2子の保育料無償化を実施。）
- ・地域子ども・子育て支援事業の概要及び昨年度実施状況の説明。
 - ・地域型保育事業の概要説明。今年4月に市内初の家庭的保育事業所「保育園ゆいま〜る たかた」開所。
 - ・病児・病後児保育事業…令和2年度から気仙保育所で病後児保育を実施。昨年度は延べ14人が利用。
 - ・延長保育事業…法人立4保育園で実施。昨年度は1施設で延べ202人利用。
 - ・一時預かり事業…市内の全保育所で実施。昨年度は、5施設で延べ165人利用。
 - ・地域子育て支援拠点事業…保育所併設の直営3か所、民間施設1か所で実施。
 - ・乳児家庭全戸訪問事業…母子保健法で同様の事業を実施、昨年度59件の訪問実施。
 - ・養育支援訪問事業…保健師がリスクを抱えている家庭、保護者に継続的な支援を随時実施。
 - ・ファミリー・サポート・センター事業は実施していないが、類似事業として子育て応援ヘルパー派遣事業を実施。昨年度9人、50時間分の利用があった。
 - ・子育て短期支援事業（トワイライトステイ事業、ショートステイ事業）…児童養護施設1か所と契約をし、対象の児童がいる場合に随時実施。
 - ・放課後児童健全育成事業…矢作小学校区を除く7小学校区の8か所で事業実施。
 - ・妊婦健康診査…昨年度の利用実績は延べ818件。
- ・今年度の子育て関連の新規事業の説明。
 - ・養育費に関する公正証書等作成促進補助…離婚の際に養育費に関する公正証書を作成する手数料や調停に要した費用に対して5万円を上限に補助。
 - ・土曜日の子どもの居場所開設…毎週土曜日に地域子育て支援センターたかたを開放し、未就学児とその保護者は無料で利用できる。
 - ・今年度から小中学生全ての給食費を無償化。
 - ・子育て応援クーポンの交付対象者の変更…出生児廃止、高校入学予定児童追加。

（質疑応答・意見）

- ・出生数の減少、人口減少は高田だけではなく全国的な状況で、高齢化率も上がっているのは当市の大きな課題となっている中で、子どもが少ないというのはマイナス面だけではなく、プラス面もあると考えていいのではないかと思います。3歳児未満の保育料の無償化など分母が少ないからこそできる施策もある。一人一人の子どもに対して予算をかけられることを上手く利用して、一人一人の子どもをより大切に育てていくことができる時代だと考え方を改めて計画を進めていけばよいのではないかと。専門家には子育てや医療などのそれぞれの分野でフォローしていただき、商工会としては、働き方改革という形で時間外勤務を少なくして、2人目、3人目を育てられるような時間的な余裕を作る政策を進めていけたらよいと考えている。各事業所には厚労省から通知も流れており、時間外勤務の削減や子育てに充てる時間の増加、父親の育休取得について働きかけをしている。そのような流れから子どもを一人でも増やしていくとか、働き方を変えていくといった形での働きかけをやっていくということを意見としてお話しておく。

- ・大変貴重な意見ではないかと思う。昔から父親の育休や、ワークライフバランスに関する話もあるので、陸前高田市は父親が育休を取りやすいような仕組みがあるとか、企業に理解を得ながら子育てをしやすい環境にあるといった施策ができればよいと思って聞いた。
- ・まさしく自分自身これから子どもを授かれたらというところであり、働き方とかを変えていかなければと思う。仕事の調整や業務の引き継ぎへのハードルは高いと思うが、しっかり育児はしていきたいと思っている。会社、企業側の理解を深められるような機会があるとすごくよいと考えていた。延長保育が4か所でできるとあるが、実際の利用は1か所だったことについて、できるけれどもニーズがなくてやっていないのか、それともニーズはあるけれども延長保育ができる環境が整っていない問題があるのか、どのような状況なのかを教えていただければと思う。

<回答>

延長保育事業は、法人立保育園の4施設で延長保育ができることになっているが、昨年度は1施設だけ利用があり、他の3施設についてはニーズが無くて延長保育を実施しなかったということである。

- ・自分自身、1歳4か月の娘が一人いる状況で2人目を考えているので、今日参加して良かったと思っている。今月娘が2回熱を出し、2回仕事を休まなければならない状況があった際に長くは休めないの、なるべく短時間にしたいと思ったが、たまたま夏風邪が家庭内で流行り、夫も義理の母も熱で倒れてしまい、誰も子どもを看れる状況になくて自分で抱え込んで頑張らないといけないと思った。その時に病児保育について調べたが、病児保育を利用するのは緊急の時がすごく多くて、今日とか明日に使いたいというときにこの事業が使えるのか伺いたい。また、子育て応援ヘルパーも緊急の時に使えるのかが気になったので教えていただけるとありがたい。

<回答>

病児保育については、医師がいる施設でないといけないため当市では対応していないが、熱は下がったけれども集団の保育は難しいという子どもに対して病後児保育ということで気仙保育所で受入れを行っている。ただし、利用するには最初に利用登録をしていただく必要がある。登録をした上で、医者から診断書を書いていただき、それを出していただければ病後児保育を利用できることになるので、今日熱が上がったから明日から利用したいというのは難しいと思うが、もし心配であれば使っても使わなくてもかまわないので、利用登録をしていただくと割とスムーズに利用ができると思う。子育て応援ヘルパーについても一旦利用登録をしていただくことになる。一度登録をしていただくと年間10時間分の無料券を配るので、あとは利用したい時にシルバー人材センターさんの方に連絡をしていただき、その都度利用していただくという流れになっている。

- ・子育て短期支援事業トワイライトステイという聞き慣れない事業を高田でもやっていたということを初めて知ったが、昨年度の延べ利用人数が8名だったということで、差し支えのない範囲で、例えばどのようなケースで利用することになったのか、どのくらいの年齢の子がどのような理由で利用したのかをお聞きしたい。

<回答>

こちらは、家庭での養育が少し難しい家庭で、保護者の方の休息なども兼ねて少し施設の方で預かっていただいたというケースである。年齢としては小学生の兄弟が複数回利用して、

延べ8人ということになっている。ショートステイも同じような形で、小学生の兄弟が複数回利用している状況。

- ・延長保育事業を実施しているのは保育協会の保育園4か所で、市立保育所が入っていない。高田保育所は人数も多く、もしかしたら高田で延長保育を利用したいという声はないのか。なぜ市立保育所で延長保育をやっていないのかということをお聞きしたい。

<回答>

市立保育所では以前、延長保育を試験的にやった時期もあったようだが、思ったほど利用がなかったということで延長保育としてはやっていない。

- ・延長保育をしたい場合に保育士に相談すれば利用できる可能性はあるのか。

<回答>

延長保育という形ではないが、6時半までは預かりが可能になっているので、申し出をいただければ最大で6時半まではお預かりできることになっている。

(4) 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画について（資料3、4、陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）（中間改定版）

（事務局説明要旨）

- ・陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第2期）（中間改定版）

- ・本計画は、令和2年度から6年度までを計画期間としているが、昨年度、令和4年度以降の内容の中間見直しを行った。基本理念を「子どもたちを健やかに育むまち・陸前高田」とし、「子どもの権利の尊重」、「子育て家庭への支援」、「地域全体で子育て支援」の3つの基本目標を定め、事業の推進を図っている。

- ・施策の展開にあたっては、子育ての時期やニーズに応じて継続的な支援の実施により負担軽減を図ること、関係機関との連携を強化すること、さまざまな媒体を活用して支援策の周知に努めることとしている。

- ・以下、主な事業の概要説明。

- ・資料3 第2期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績

- ・昨年度、計画値の見直しを行った結果、各町とも概ね計画値に近い実績となった。全体では、1号認定で計画値を上回ったが、2号、3号認定では計画値をやや下回り、合計では計画値の95%程の実績であった。

- ・資料4 第2期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績

- ・昨年度見直しを行ったが、延長保育事業や病児・病後所保育事業などは計画値を下回った。

- ・乳児家庭全戸訪問事業も出生数が少なかったことで計画値を下回ったが、対象者の家庭は全て訪問している。

- ・地域子育て支援拠点事業は計画値を上回る実績となり、需要が高いと認識している。

（質疑応答・意見）

- ・ワークライフバランスや父親の育休という部分も盛り込まれればと思う。結婚については個人的な問題になるが、結婚したら子どもを産みたいと思える陸前高田市の方が実現性が大きいのではないかと。この環境だったら陸前高田市で2人目、3人目を産みたいと思ってもらえるような施策も盛り込めるのではないかと。他の市町村に比べると、陸前高田市は子育て支援に手厚いということをいつも感じている。小さい市の中に地域子育て拠点支援事業が4か所もあり、保育料無料などすごく手厚いと思うが、なかなか少子化は食い止められない。

- ・教育機会の確保とキャリア教育の推進という部分に関して、イングリッシュ・キャンプや英語技能検定への助成ということで、グローバルのところに対応していこうというのをすごく感じている一方で、適応支援に近いと思うが、家と学校以外の居場所作りをしようという動きも今は多いと思う。いわゆるユースセンターと呼ばれるものや、ワーキングスペースのような形で第3の居場所を作ること、中高生が行き来しやすい新しい居場所を作るといった動きが全国的にあるのかなと思うが、そういった第3の居場所や、学校と家以外の居場所づくりなども盛り込めると子どもたちにとってもよいのではないかと思っている。それと、学校や家庭、地域、企業などと連携という記載があるが、地域という視点は計画のどこに盛り込まれているのかも気になった。私は陸前高田生まれではないが、陸前高田に来て思うのは地域の方たちの温かさや、地域に子どもがいることで地域にも元気があり、開かれた教育環境は大事だということに付随すると思うが、地域側が教育に関わっていく機会をどのように作っていくのがいいのか考えていきたいと思っている。今回の計画の中で地域の方々に関われる場所がどの部分にあるのかをお聞きしたい。

<回答>

第3の居場所というところについては、まだ現在検討中である。基本的には学校に行けなくなっている不登校の子どもたちに対し、復帰プログラムの形で適応支援教室と言われるジャンプスクールという所を教育委員会として準備しており、そちらに通っていただいて、できるだけ復帰を目指すところを家庭との相談の上だが適応支援事業として行っている。ただ、第3の居場所という形については、まだまだ難しいところがあるので今後検討するという形になると思っている。2点目の地域というところについては、各小学校、中学校にコミュニティスクールというものが設置されており、そこを中心にしなごらということになる。計画の中に学校運営協議会（コミュニティスクール）という記載があり、こちらを中心に地域の方々に入っただきながら学校に関わっていただくということと現在進んでいる。

- ・地域全体で子育て支援という面で、この前のお天王さまのお祭りの際に、まちなかを中心として青年部で夜店をやったが、非常にたくさん子どもたちに集まっていた。特に、小学生、中学生はなかなかそのような機会がないということで喜んで参加していただいた。学校・教育だけの活動ではなくて、地域でのお祭り、イベントに参加できる体制、参加しやすいような形を作っただけであればと思う。七夕などの伝統文化、イベントに参加して地域と一体になって子どもを育てられればと思う。地域でイベントをやったりすれば、どこの親御さんの子どもか、どこのお孫さんかが見えてくるので、そのような機会を持って、参加できるような体制にしていけば、地域全体での子育てという考えにつながっていくのではないかと。
- ・陸前高田市には学童はあるが児童館がない。県内では駅の近くに児童館があって、小さい子どもが遊べる子育て支援センターや、高校生が勉強できるスペースがあったりする。先ほどの市長さんの話で、地域にご意見を伺うと公園が欲しいという話があるのだけれど、今、公園を作っても子どもが遊びに来るのかという疑問もあるので、新しい居場所とか自然と遊べるようなものを考えていけたらいいと思う。
- ・初めて知ることがすごく多くて、こういう施策があるんだと思ったのだが、地域などに周知するにあたって、市ホームページ等とあるが、これ以外にはどのように情報発信や周知をしているのかを教えてください。

<回答>

広くお知らせする際には広報やホームページという形になるが、特定の対象者のところについてはチラシを個別に配ったりしている。今年度からは、妊娠届を出された際に子育ての段階に応じて受けられる健診や子育て支援センターを紹介したものをピンポイントで周知するようにしている。

- ・子どもの数が少ないということもあるので、病後児保育の登録の簡素化や、保健課と子ども未来課とでつなげて情報提供できるような体制があるとスムーズにできると思うので、情報の提供と登録の簡素化を一緒に考えていただいて、素晴らしい施策がたくさんあるのもっと利用してほしいと思う。
- ・子育て応援クーポン券の対応に関わっているが、令和4年度の利用が50件、利用者が9名ということで、せっかく良い制度があるのだけれどもいっぱい利用されるわけでもなく横ばいで推移している。子どもたちがたくさんいないと陸前高田市も国も衰退していくのではないかと心配している。私は子育て会議2期目だが、計画の策定にあたって量の見込みや数値目標が具体的な数で示されていて、増えるよりも減るという傾向があって、ではどうしたらいいのかというのが具体的に今日の説明の中で少しわかった。子育て中のお母さんが、こんな良い施策があるんだと言っていたが、LINEや広報や回覧板、健診などで周知していると説明されていたが、陸前高田市で結婚して子どもを産み、育てていくときにどのようなメリットがあるのかをわかりやすくまとめたものがあるとよいのではないかという気がする。お天王さまの際にたくさん家族連れや子どもたちがいて、賑やかで華やかな印象だった。小中学生が部活とかの学校関係の行事だけではなく地域に集まって楽しめる活動がきっとあるはずで、地域の中で子育てしたり関わったりして楽しかったと思える設定を大人たちが作っていければよいと思う。

(5) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定ニーズ調査について（資料5）

（事務局説明要旨）

- ・第2期支援事業計画が令和6年度で終了するため、令和7年度からの第3期計画策定に向けて、現状を分析して課題を整理し、子育て支援に対する市民のニーズを把握するための調査を今年度実施する。
- ・調査対象は就学前児童の保護者と小学生の保護者を予定。
- ・調査の設問は、前回の調査項目を参考にしながら、国の指針や「こども大綱」の内容を基に設定するほか、貧困に関する質問を設け、実態についても調査したいと考えている。
- ・ニーズ調査の質問項目の設定にあたっては、委員のご意見も参考にしたいと考えているので、ご意見を頂戴したいと思う。

（質疑応答・意見）

- ・特徴ある質問を設けようと思っているか。

<回答>

まだ国の指針等が決まっていないので具体的なものは考えていないが、貧困に関する質問を5問程度入れたいと考えている。

- ・陸前高田の施策ですごく良いことをやっているけれど知らなかったという声が多いので、施策を周知するような質問はどうか。

(6) 市内保育施設の認可定員の変更について（資料6）

(事務局説明要旨)

- ・令和5年4月からの認可定員を米崎保育園は100人から80人に、横田保育園は30人から20人に、竹駒保育園は40人から30人にそれぞれ変更する申請が認可権者である県に提出され、認められた。
- ・最近の出生数の推移や今後の利用見込みを考えると、定員減少はやむを得ないものと認識している。今後の保育需要に不足が生じないように注視していく。

(質疑応答・意見)

- ・定員が100人から80人に落ちたことによって保育士の人数も基準も変わり、数名の雇用が減るという現実があるのではないかと。現在も定員に合わせて上限の保育士を雇用していると思うが、定員が減少することでどれくらい影響があるのかと、将来的に雇用が減ることになるのかということを確認したい。

<回答>

保育士が一人で見られる子どもの数は年齢ごとに決まっており、それによって保育士を配置していく。全体というよりも年齢ごとにいくら減ったかによって保育士の数も決まることになるが、今現在、国の方で保育士の配置基準を見直そうという動きも出ているので、配置基準が見直されればむしろ保育士が必要になる状況になるのではないかと考えている。あとは、障がいまではいかななくても少し発達が遅れている児童に保育士を付けて重点的にサポートするという形もとっているため、保育士の雇用が減るという見込みはないのではないかと考えている。

- ・高田保育所と米崎保育園はいつも定員超えの人気の場所だと思うが、なぜ米崎を減らしたのか。

<回答(保育協会)>

入所数が減っているため定員数を減らした。下矢作や横田のほか、米崎も出生数が減っている。米崎では震災後にたくさん生まれた子どもたちが保育園を卒園した時期にあたり、入ってくる子どもが少なかったため、高いままの定員数だと経営が成り立たなくなってしまう。今回は入所見込数と卒園見込数をみて100人から80人に下ろさせていただいた。

- ・兄弟一緒に保育園に入りたいけれども上の子と下の子で違う保育園になりそうだという声があるが、その部分は解消されるのか。

<回答>

兄弟で通う場合は同じ施設になるように市で調整している。

(7) その他

なし。

6 その他

なし。

7 閉会